

## 第2分科会 < 第1分散会研究課題 > 豊かな心を育成する教育課程の編成と校長の在り方

### 研究発表 道徳的実践力を高める学校運営の在り方

兵庫県 尼崎市立武庫南小学校 山下 秀 男

#### 趣 旨

学習指導要領解説道徳編の中に「学校は、家庭や地域社会と一体となって、子どもたち一人一人の道徳的自覚を促し、自立をはぐくむ中で、人間としてよりよく生きていく道徳的実践力を育成する必要がある。」と書かれている。

そのためには、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び道徳の時間における指導が一層充実されねばならない。校長として学校運営面から子どもの道徳的実践力を高める手だてとして、子ども・家庭・地域の実態を把握するとともに様々な道徳的価値をいかにして学校組織を機能させ、実践力を身に付けさせるかが重要である。

本校では、長年人権尊重の精神を培い、人間性豊かな児童の育成を目標に教育活動を行っている。この教育活動の中でいかにして道徳的実践力を培っていくか、校長としていかなる指導力を発揮するかを本校の実践から提案する。

#### 研究の概要

##### 1 県の取り組み(平成16年度 指導の重点より)

###### (1) 学校の教育活動全体で道徳性を育てる

学習指導要領の趣旨・ねらいを生かし、各学校で創意・工夫を生かした道徳教育の全体計画を作成し、児童生徒、家庭や地域社会の実態を考慮した指導を行う。また、そのための指導体制や研修体制の充実を図る。

###### (2) 道徳の時間を充実する

児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有するという姿勢をもとに、「命の尊さ」「自尊感情」「思いやりの心」「困難や逆境に負けない強い心」などの大切さに気付かせ、道徳的実践意欲と態度を育てていくため、校長をはじめ、すべての教師との協働体制の中で、多様な指導の工夫に努める。

###### (3) 家庭や地域社会と連携する

道徳の授業を公開したり、懇談会や広報活動で道徳教育について取り上げるなどして、家庭や地域社会の理

解や協力を得られるように工夫する。

##### 2 市の取り組み(平成16年度 指導の方針より)

###### (1) 自己の形成を図る教育の推進

自らの役割と責任を進んで果たす強い意志と他の人に対して感謝と思いやりの心を持つよう指導に努めるとともに、生命の尊さや自然の偉大さなどに対する畏敬の念を深め、人間として生きる喜びを見いだす教育を推進する。

###### (2) 心に響く教育の充実

道徳的価値の自覚が一層高められるよう、体験活動等の多様な取り組みの工夫や魅力的な教材の開発や活用を行い、各学校の創意工夫と特色を生かした道徳教育の充実を図る。

###### (3) 家庭や地域との協働

保護者や地域の人々の参加・協力を得ながら、道徳性を培う学習を展開し、家庭や地域の一員として自覚を持つとともに、尼崎市民としての誇りを持ち、よりよい社会を築こうとする教育を充実する。

##### 3 実践事例

###### (1) 本校の取り組み

###### 地域・学校の概要

本校は、尼崎市の北西部にあって、周囲は畑が点在し、西には武庫川が流れているなど、自然に恵まれ、のどかな環境にある。児童数は743名で全体の約1/3が援護家庭と家庭的にはあまり恵まれていないが、人なつこく、元気で素直な子どもが多い。しかし、やや積極性、主体性に欠けるところがあり、家庭での学習習慣や基本的生活習慣の定着は不十分である。保護者や地域の人々は学校に協力的である。

本校職員は、41名で、学力補充の加配教員3名、非常勤講師1名が含まれている。

###### 具体的な取り組み

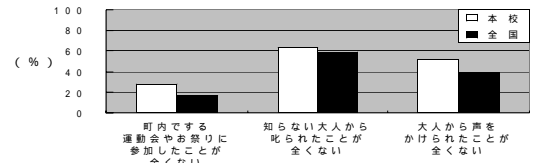
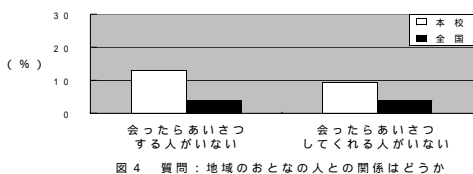
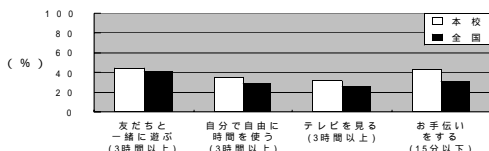
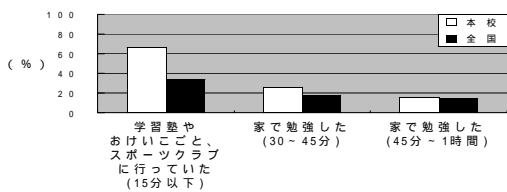
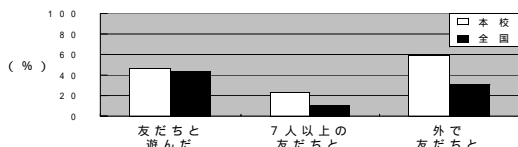
校区に旧対象地区があり、在日朝鮮・韓国籍児童

も多くいることより、仲間づくりを中心にした人権(同和)教育を長年研究の柱の一つとして取り組んでいる。道徳教育においても人間尊重の精神を身に付け、他人のことを思いやれる心を持ち、責任を持って行動する実践力や生命をかけたがえのない大切なものとして、尊重する態度を養うことを指導の重点に置いている。

ア 生活実態調査の実施

本校児童の生活実態と生活についての意識調査を昨年度4年5年6年全児童335人を対象に行った。アンケート項目はベネッセ未来教育研究所「モノグラフ・小学生ナウ『子どもの放課後』」を引用し、全国との比較検討のため参考にした。

内容を見ると平日の放課後で日中は、多くの友だちと外でよく遊び、家に帰ると30分から1時間勉強している子どもが比較的多く(図1、2)塾や習い事に行く子どもは少ない。(図2) 休日は、勉強より友だちと遊んだり、テレビを見たり、自分で自由に時間を使ったりするが家の手伝いをしない子どもが多い。(図3) また、地域には子どもの遊び場が比較的多くあり、周りの住民と関わる機会があるはずなのに、その関係は希薄で、顔見知りは少なく、気軽に話ができる大人が少ない。(図4、5)地域のイベントや祭りに参加した経験もあまりない。(図5)



イ 「あいさつ運動」の実施

本校では、子どもたちの規範意識の育成は日常の基本的な生活習慣の形成が土台になると考え、あいさつを身につけさせる取り組みを以前から行っている。具体的には、生徒指導部が年間生活目標に「あいさつを進んでしよう」を掲げ、生活委員会が毎朝校門に立って、呼びかけを行っている。昼には当番が給食を取りに行った際、どの学年も調理師に対し大きな声で「いただきます」と言うように指導している。また、教師も児童のあいさつには必ず応えるようにしているが、校長も率先して朝校門に立ち、あいさつで子どもたちを迎えている。昨年4月に着任し、あいさつの定着がまだ十分でないと感じた。そこで、一つの試みとして、朝会時あいさつの大切さを全児童に「あいさつは心のキャッチボール」になぞらえ講話した。次の日から、あいさつをしっかりとできた子どもに『いいたまストライク』のカードを、それを3枚集めると『おみごとホームラン』のカードを、それを10枚集めると『あいさつ名人』の認定証を渡すことにした。

昨年11月に保護者のあいさつについての考えを知るためアンケート調査(回収率74%)をしたところ、大半の親があいさつの意義を認め、学校の取り組みに賛同している。

お子さんは、最近ご家庭でのあいさつはどうか。(%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
よくするようになった	30	34	14	24	9	22
かわらない	69	65	84	74	89	73
しなくなった	1	1	2	2	2	5

保護者の声

・ あいさつをするというのは、とても大切なことだと思っ  
ていましたので、この取り組みには大賛成です。 ふれあい  
当番をした時も子どもたちから「おはようございます」と言  
われた時は、とてもうれしかったです。 もっとあいさつの輪  
が広がればと願っています。

・ 良いことだと思います。うちの子は、まだ他の人に 対  
しては、はずかしがったり照れたりして、確実には できてい  
ませんが、家の中ではあたりまえにできてい る事をうれしく  
思っています。人間として基本的なあ いさつを子どもに教  
えていただき感謝します。

このカード作戦の1年間の成果は、『あいさつ名人』が4人、『いいたまストライク』をも



## (2) 他校の取り組み

### 尼崎市立西小学校

当校は地域にかかわり、地域の中で主体的に活動する子をめざし、豊かなかかわりの中で、思いやりの心を育てる総合単元的な道徳学習を進めている。道徳教育の重点目標を各学年で系統化し、各教科、特別活動、総合的な学習との密接な関連を図りながら補充・深化・統合し児童の道徳的価値の内面化や実践力を高めている。

一例をあげると、総合主題『大すきだよ!!おじいちゃん、おばあちゃん』の学習では道徳「ヤギのおじいさん」で身近なお年寄りを来ていただき、温かい心で接し、親切にしようとする心を育てようとした。(第39回全国小学校道徳教育研究大会兵庫大会発表校) 尼崎市立武庫東小学校

当校は、昨年度本市小学校道徳研究会主催で「心のノート」を使用した授業を公開し研究協議を行った。学習内容は、2年道徳「みんなみんな生きてるよ」(生命尊重)で命がかげがえのないものだと気づき、生命を大切にしようする気持ちを育てるねらいで「心のノート」の写真を導入に用いた。その後、赤ちゃん人形を使った模擬体験や実際の母親の話など盛沢山の内容のため、「心のノート」を効果的に使えなかったことが研究協議で反省点にあげられた。

## まとめ

### 1 成果

本校は、地域の実態から特に基本的生活習慣の定着と仲間づくりに取り組んできた。道徳性を4つの視点からみると、さわやかチェックは1の視点(主として自分自身に関する事)、あいさつ運動は2の視点(主として他の人とのかかわりに関すること)、仲間づくりは4の視点(主として集団や社会とのかかわりに関すること)にあてはまると考える。

さわやかチェックについては、年度や学年の特性はあるものの、この取り組みを継続することで本人の健康についての自覚や家庭の関心が高まり、基本的生活習慣が定着しつつある。

あいさつ運動については、数年前から年間の生活目標に掲げながらも、ややかけ声で終わっている感があった。昨年度、改めてその大切さを認識させる働きかけを行ったところ、学校全体であいさつを交わすようになってきた。さらに保護者からも賛同の声が多くあることから、今後は家庭や地域へも広げていきたい。

仲間づくりについては、長年本校のテーマの一つとして、取り組んできており、現在目立たいじめや仲間はずれはない。しかし、行事の場のみにとどまる傾向があるので、普段の関わりから意識して実行させ、今後も友だち同士認め合い励まし合う

風土を作っていきたい。

### 2 課題

「道徳の実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の子どもが道徳的価値を自分の内面から自覚し、将来出会うであろうさまざまな場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。それは、主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度を包括するものである。本来、道徳の実践は内面的な道徳の実践力が基盤にならなければならない。」と押谷由夫氏は述べている。

このことを本校の子どもの育ちに当てはめてみると、仲間づくりやあいさつ等の基本的生活習慣の定着化は道徳実践力の初期段階で、次にさらに高い道徳的価値の自覚を深め、道徳実践力を育成しなければならない。

そのためには、今行っている「あいさつ運動」を家庭、地域に広げ、家の前で「いってらっしゃい」「おかえり」と子どもの見送り、出迎えをするよう保護者に協力を求め、地域の人には子どもにも「危ないよ。気をつけてね」などの声かけを積極的にお願いをしたい。このことは、安全対策や防犯効果になって、地域力を高めるきっかけが期待できる。子どもたちには、地域の中で自分に声をかけたり、親身になって注意する大人がいることを実感し、地域が好きになり住み続けたいと思う子どもが増えることを望む。それを実現するには、まず校長がリーダーシップを発揮し、学校評議員に意見を求めたり、地域の関係諸団体に理解と協力を得るなど条件整備が必要と考えている。

次に、教職員の資質の向上にむけては、校内研究の充実はもとより、子ども一人一人の生活背景を踏まえたきめ細かな指導の充実を図るため、日頃の情報交換や研修会の開催、先進校の見学など積極的に行っていきたい。

### 引用文献

平成16年度兵庫県「指導の重点」尼崎市「指導の方針」  
ベネッセ未来研究所 モノグラフ・小学生ナウvol.21-3  
「子どもの放課後」

明治図書 押谷由夫編著改訂小学校学習指導要領の展開  
東信堂 林 忠幸編 新世紀 道徳教育の創造  
全国連合小学校長会編 小学校時報4月号 632